

「親プロ」の学校への普及のための課題と取組み

～学校での具体的な取組み事例の紹介と分析～

広島県立生涯学習センター

社会教育主事 竹中 英之

1 はじめに

広島県教育委員会では、平成 20 年度より家庭教育支援の一層の活性化のため、『親の力』をまなびあう」学習プログラム（以下「親プロ」という。）の普及に取り組み、今年度で 7 年目を迎える。「親プロ」講座を展開していくファシリテーターの養成講座を県内各市町において養成する態勢が整い、それに伴い「親プロ」講座も増加しつつあり、平成 24 年度の受講者は 5,000 名を超え、平成 25 年度は 6,000 名に近づきつつある。

しかし、「親プロ」講座の実施状況を見ると、保育園や幼稚園、公民館での講座活動、地域行事での利用が多く、学校での「親プロ」講座は横ばい傾向にある。特に、中学校と高等学校では、伸び悩んでいる状況にある。

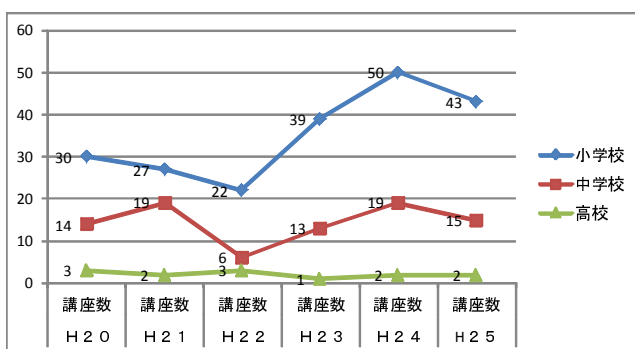


表 1 「親プロ」講座数

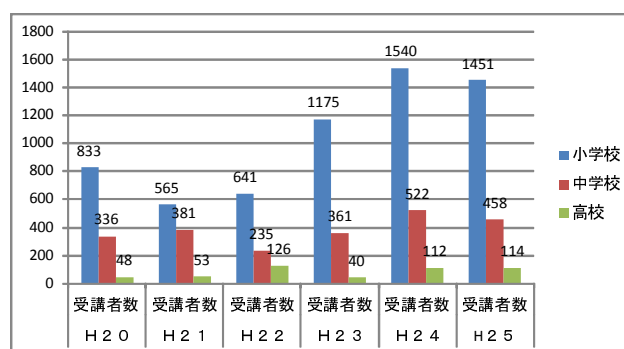


表 2 「親プロ」受講者数

(※平成 25 年度の数值は 3 月 4 日現在である。)

本研究では、学校（※小学校・中学校・高等学校に限定する。）での「親プロ」の普及の参考になりそうな事例を紹介し、その課題と今後の方策について考察を試みる。

2 課題設定の理由（なぜ、「親プロ」を学校へ普及させる必要があるのか）

学校での「親プロ」の普及についてであるが、なぜ「親プロ」を学校へ普及させる必要があるのか、また、「親プロ」講座を学校で実施することの利点について 3 点ほど指摘したい。

(1) より多くの保護者に「親プロ」のよさを知ってもらえる場

現在、県内各地での「親プロ」講座のほとんどが保育園・幼稚園・公民館での子育て

講座などである。講座数の総計では大半を占めるこれらの講座だが、1回の講座の参加者数は10名程度の参加が多く年間にわたる講座を開設しても同じメンバーが集うことも珍しくない。

学校での「親プロ」講座は、授業参観後の学年（学級）PTAやPTA主催の研修会などの活用事例があり、1回の講座で30～80名程度の参加が多い。休日の授業参観後のPTA集会では父親の参加など保護者同士の多様な学びも見込まれる。

中学校や高等学校では、教材番号「1」や「2」を活用し、地域のファシリテーターの協力によるグループ学習を通して、生徒のコミュニケーション能力の育成と人間関係の確立や自己の在り方や生き方、進路への考察、教員の多面的な生徒理解など授業による活用が見込まれる。

このように学校での「親プロ」講座は、1回でより多くの参加者を見込むことができ、より多くの保護者に「親プロ」のよさを知ってもらうことが期待できる。

（2）学校やPTA活動に関心の薄い保護者の参加

様々な課題を抱える子どもの保護者には、PTAの集会などに参加した方がない方も多い。いくつかの要因が考えられるが、参加しても特定の保護者の意見が重視され、自分の意見が取り上げられないことから参加しないことが考えられる。そのような状況に陥らないように、グループワークや話合いで「親プロ」の3つの約束（発言の平等・人の意見の肯定・秘密の保持）を徹底し、「心の安心」を確保することで、学校やPTA活動に関心の薄い保護者の参加が期待できる。

（3）特色ある教育活動の展開

今日の学校の教育活動では、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開が求められている。その際、生徒の発達段階を考慮しつつ、家庭との連携が求められている。創意工夫を生かした教育活動と家庭との連携という点で、「寄って、話して、自ら気づく」をコンセプトとした「親プロ」は保護者の思いや考えを出し合う有効な手段であると考えられるだろう。「親プロ」のワークシートは、各世代に応じた多様な内容がそろっており、ホームページからダウンロードすることにより地域の実情に応じたアレンジが可能であることで使いやすい教材となるのではないかと。また、講座を進行するファシリテーターを地域の人材から招聘することで、より地域に密着した教育活動の展開が見込まれる。

3 「親プロ」の学校への普及のための取組のポイント

前章において、学校で「親プロ」を実施する利点について3点挙げたが、学校が「親プロ」を普及していく上での取組のポイント（視点）としては、以下の3点を重視する必要があるだろう。

(1) 学校・家庭・地域の連携・協力の推進

子どもの教育は、学校だけで行われるものではない。子どもたちの「生きる力」を育むためには学校・家庭・地域が相互に連携しつつ、社会全体で取り組むことが不可欠である。特に家庭教育は全ての教育の出発点であり、あいさつや家族の会話、テレビやゲームなどのルールづくり、早寝早起き朝食などの基本的な生活習慣の確立は学校生活の基盤でもあり、家庭で育む「生きる力」である。しかし、その家庭・地域と学校の協力体制の中心となるのがPTAでありながらも、その活動内容としては、スポーツイベントや文化活動、著名人による講演会活動など啓蒙的な取り組みが多く、日常生活で取り入れていくことのできるような実践的な活動が少ないと聞く。

子どもたちの学校生活の基盤を一層確立していくためにも、学校が家庭・地域とどのようにして連携・協力をしていくかを、親と教員とが共に協議し合うような取り組みを行うことが大きな取組のポイントの一つと考える。

(2) 子どもたちの学習に取り組む意欲の育成

教育基本法や学校教育法の改正等により学力の重要な3つの要素の1つとして、「学習に取り組む意欲」の育成が規定された。この学習に取り組む意欲を養うため、教科の学習と身近な話題を通しての自己の生活や生き方を問い直すような活動を通して学習する意義を考える教材が必要だと考える。キャリア教育や道徳教育の充実とともに、子どもたちの「生きる力」をより一層育むため、「親プロ」を学習教材の一つとして活用できないかと考える。

(3) 職員研修の充実（教員のファシリテーション能力の育成）

「親プロ」講座を展開していくためには、講座を進行していくファシリテーターの存在が不可欠である。児童・生徒を対象とした「親プロ」講座を実施するために地域からファシリテーターを招聘することも可能であるが、教師がファシリテーション能力を身につければ、日頃の教育活動のさまざまな場面での活用が見込まれる。具体的には、学級における望ましい人間関係の形成や教科・部活動における児童・生徒理解や適切な支援、保護者会の進行などでの活用が見込まれる能力である。

夏季・冬期などの長期休業を活用し、校内研修の一環として研修することなどで職員の統一意識を図ることなどが今後の課題として考えられるが、実施すると効果も大きいのではないだろうか。

4 「親プロ」の学校への普及のための取組のポイントへの具体的方策

3章で「親プロ」の学校での普及のためのポイントを3点挙げたが、本章ではこうした視点をふまえた実践として参考になる事例について紹介し、その特徴と今後の課題について分析を試みる。

(1) 学校・家庭・地域の連携・協力の推進が期待できる取り組み

◀事例1▶ 広島市立安佐南中学校とPTA、広島市立古市公民館の協力事例

平成25年7月12日（金）に広島市立古市公民館の研修室を会場として広島市立安佐南中学校PTA主催による保護者研修会が開催された。当日は、教職員と保護者総勢で71名の参加で大変盛況であった。

この研修会の開催には、過去の状況から以下の2点の課題があった。

【課題】

- 1：参加者が例年少ないので多くの保護者に参加してほしい。（時間、場所）
- 2：新しい試みをしたい。（内容） ※講演会などマンネリ化からの脱却

この課題の克服のために、以下の2点の方策を実施した。

【具体的方策】

- 1：より多くの保護者の参加を目指して週末の夜（19:00～21:00）に開催した。
学校が坂の上で自家用車の駐車場が少なく参加しづらい環境だったので、地域の中心に立地し平地で駐車場の確保が見込める公民館での開催とした。また、公民館で「親プロ」講座の開催実績があり理解と協力が得られた。
- 2：講演会などの一方的な形式ではなく参加型による研修会とするため、「親プロ」講座を実施した教材は、中学3年生の保護者が対象なので、「進路実現」をテーマとした教材番号「20」（キャッチボールは得意ですか?）とした。

【講座のスケジュール】

講座のスケジュール（広島市立安佐南中学校）			
19:00～19:15	雰囲気をもたせるレクリエーション	20:05～20:25	話し合い②
19:15～19:30	ワークシート記入①	20:25～20:40	全体への発表
19:30～19:50	話し合い①	20:40～20:50	ファシリテーターの話
19:50～20:05	ワークシート記入②		
		21:00	解散

【講座の様子】（活動の様子）

中学3年生の保護者を対象として「進路選択」をテーマに活発な話し合いが行われた。

保護者だけでなく、学校の教員や管理職もグループワークに参加し、保護者の思いを聞いたり生徒の学校での様子を伝えるなど、保護者と学校の双方にとって有益な時間となった。（写真①）



写真①

講座の後半では、各グループで話し合った内容を全体に発表した。保護者はユーモアを交えながら、子どもに対する共通の悩みや思いを共有することができた。

また、父親の参加も見られ、各グループで多様な意見交流が行われた。

保護者と教員の双方が中学生時代を振り返りながら、普段とは違う個性の発見にもなった。（写真②）



写真②

ファシリテーターは、広島市の小林さんが担当した。予想を上回る参加者数で、会場が少し狭かったが、そのことを感じさせない的確な進行と子育てに一段落した親の先輩としてのコメントで最後をまとめられ参加された保護者と教員から共感を得た。

（写真③）



写真③

【保護者の声から】

- ・まさに今進路選択の時期で難しい時期の子どもがいるので、タイムリーな話題で分かりやすかったです。
- ・座学ではないと分かって、正直嫌だと思いましたが、参加してみたら同学年の親と話ができてとても楽しかったです。
- ・ふだん他の保護者と話をする機会がないので、多くの保護者の方の意見やエピソードを聞くことができてとても良かったです。悩みの共有ができ、心が楽になりました。

・子どもとの関わり方は、頭で分かっていることではあるけれど、実際できていないなあと痛感しました。

・自分が中学校三年生だった頃のことを振り返り、自分も親にしてもらったように、子どもを見守っていこうと思いました。

・学校の先生方やP T A役員がディスカッションの進行をしても、保護者の意見は出にくく、うまくはいかないものです。第三者の方が進行をしてくださることで、たくさんの活発な意見が出されていて、とても良かったと思いました。

【ファシリテーターの声から】

主催者と事前協議を重ね、参加者（保護者）が中学三年生で進路選択を迫られていた時期を思い出すことに重点を置いた。ワークシートの設問も変更したが、参加者から設問について指摘事項はなく、自ら気付くという点で効果があったと思う。意見交流は、会場のスペースに余裕を持たせる方が落ち着いて会話できると思った。

【講座の分析】

広島市立安佐南中学校、広島市立安佐南中学校P T A及び広島市古市公民館の共催で、「親プロ」講座が実施され、中学校三年生の保護者を対象として進路選択をテーマに活発なグループワークが行われた。P T Aと学校の共催で「親プロ」を活用される事例が各地で見られるが、学校（教員）が積極的にグループワークに参加し、保護者の思いを受けとめることで今後の学校運営に生かそうとした。

また、P T Aは過去の保護者研修会の課題を分析し、その克服のために日時や場所、研修内容について地域の社会教育施設と連携協力した。そのことが研修会の参加者数を大きく引き上げた要因だと考える。

今回の「親プロ」講座の開催は、学校及びP T A、地域の生涯学習・社会教育の拠点である公民館が、地域の子どもの健全育成や学校支援、地域課題の共有と解決を目指す中で実現したもので、学校・家庭・地域の三者が連携・協働した好事例である。

（2）子どもたちの学習に取り組む意欲の育成が期待できる事例

◀事例2▶ 広島県立河内高校での「親プロ」講座の実施（L H Rの活用）

平成26年1月30日（木）に広島県立河内高等学校の研修室を会場として普通科の1年生2クラスの生徒を対象として「親プロ」を初めて実施した。当日は、生徒72名の参加で男女が互いに思いを出し合いながら、ほのぼのした会となった。

この講座の開催には、学校から以下の2点の要望があった。

【要 望】

- 1：1月末の木曜日6時間目の50分間で2名のファシリテーターにより進行してほしい。
- 2：生徒にとって身近なエピソードを扱ってほしい。(ワークシートへの記入やグループワークがより活発になるように)

この要望の実現のために、「親プロ」講座実施において以下の2点の方策を実施した。

【具体的方策】

- 1：学校の行事予定などを考慮して、平成26年1月30日(木)の6時間目に開催した。学年会の教員は「親プロ」を知らなかったため、事前打合せに赴き、教材を説明しながら講座実施の概略を説明した。また、東広島市と近隣で活躍する2名のファシリテーターを招聘した。
- 2：教材は、学校が生徒にとって身近なエピソードを希望していることから、「親子関係を振り返る」をテーマとした教材番号「2」(親知らず 子知らず～親子関係を振り返る～)とした。

【講座のスケジュール】

講座のスケジュール (広島県立河内高校)

14:25～14:35	雰囲気と和ませるレクリエーション	15:05～15:20	全体への発表
14:35～14:45	ワークシート記入①	15:20～15:25	ファシリテーター
14:45～14:55	話し合い①		の話
14:55～15:05	話し合い②	15:25	終了

【講座の様子】(活動の様子)

講座の開始はワークシートのエピソードの把握から行った。エピソードの登場人物のセリフの読み合わせを生徒が行うなどして雰囲気を高めた。(写真④)

ファシリテーターの1名(林さん：写真中央)は、広島県立河内高校の卒業生で、生徒にとっては大先輩のファシリテーションに、生徒はリラックスすることができた。



男女混合のグループ編成やワークシートのエピソードが身近なことからワークシートへの意見の記入やグループ内での思いの共有などに積極的に関わる様子が見られた。

(写真⑤)



講座の後半は、「親の役割とは？」と題してグループごとに「親の役割」を三つずつ挙げて紙に書き出し、その後、前に出て発表した。

「成長を見守る」、「悪いことをしたら叱る」、「社会のルールを教える」、「子どもの居場所を作る」など、多くの意見が出された。

(写真⑥)



【参加者の声から】

《生徒から》

・親の気持ちになれた。親になったら子どものことをしっかりと守ってあげたい。支えてあげたいと思った。(女子)

・自分にもよくある内容だった。自分が親になったら、怒る、優しくする、守るをしたいと思う。(男子)

《教員から》

・入学して10か月が経とうとしているが生徒の意外な一面を見ることができた。男女が意見を出し合いながら交流している姿がとても良い。エピソードが身近で、生徒同士が話しやすいのではないかと。次年度は生徒に加えて保護者も対象として行ってみたい。

【講座の分析】

広島県立河内高等学校での「親プロ」講座は初めての試みであった。「思春期にあって親とのコミュニケーションが希薄になりがちな時期に、親プロ講座を通して、自分の親子関係を振り返り、親の役割や気持ちについて考えるとともに、今後の高校生活への展望を持ち、将来、自分が親としてどうありたいかを考える」ことをねらいとして進められた。講座の最初では、ファシリテーターと初対面となる生徒の緊張した雰囲気や和らげるためにソフトな語り口調や身近な話題で視線を引き付けるなど、ファシリテーター

の工夫が後の活発なグループワークに生かされた。

また、今回の講座は、同校卒業生と同市内在住のファシリテーターが務め、そのことを交えた自己紹介も講座の冒頭に行われた。高校生にとっては、社会のために活躍されている先輩や地域の方の姿を間近に見ることで、将来の自分自身の姿について考えるよい機会（キャリアの視点）になったのではないかと考える。

さらに、グループワーク中の生徒の中には、「親プロ」で取り上げているエピソードと自分の経験が一致していることを周りに伝えたり、他者の発言に共感したりする姿が見られた。また、ファシリテーターの肯定的な評価に「今日、ほめられてやる気になった。」や「自分だけではないんだ。みんな同じ経験をしているんだ。」などの会話が聞かれた。自己理解や他者との共感、自己肯定感の向上にも効果的な時間であったと思われる。

1学年で2クラスが同時に、しかもファシリテーターからの提案により男女混合のグループワークというかたちで行った試みが新しい学びを構築した好事例である。

《事例3》広島県立総合技術高校での「親プロ」講座の実施（「発達と保育」の授業）

平成26年2月18日（火）に広島県立総合技術高等学校の人間福祉科の1年生を対象に「発達と保育」の授業中に「親プロ」講座を実施した。全生徒40名（全員女性）の参加で、ファシリテーターは広島県立生涯学習センターが務め、教材番号「2」（親知らず 子知らず～親子関係を振り返る～）を使用した。

【講座のスケジュール】

講座のスケジュール（広島県立総合技術高校）

10:50～11:05	雰囲気のを和ませるレクリエーション	11:55～12:15	話し合い②
11:05～11:15	ワークシート記入①	12:30～12:40	ファシリテーターの話
11:15～11:35	話し合い①	12:40	終了
11:35～11:55	ワークシート記入②		
(11:40～11:50 休憩)			

【講座の様子】（活動の様子）

総合技術高等学校での「親プロ」講座は平成23年度に続き2度目である。「自分の親子関係を振り返り、親の役割や気持ちについて考えるとともに、将来、自分が親としてどうありたいかを考える」ことをねらいとして進められた。（写真⑦）



入室時にクジを引き、グループ分けを行った。各グループの進行役を中心に、自分と親との関わりや、教材のエピソードを読んで感じたことなどを交流し合った。校長も、講座を見学し、笑顔で生徒の会話に加わった。(写真⑧)



写真⑧

講座の後半では、「親の役割とは」と題し各グループから「親の役割」を三つずつ挙げて紙に書き出し、その後、前に出て発表した。「子どもを守る」、「社会に通用するルール・マナーを教える」、「愛情を与える」「子どもの見本になる」など多くの意見が出された。(写真⑨)



写真⑨

【参加者の声から】

《教員から》

・今日は楽しい雰囲気の中で自分の親子関係を振り返ることができ、よかったと思います。時にはこういう形態での授業も入れてみようかと思っています。

【講座の分析】

広島県立総合技術高等学校での「親プロ」講座は、2年ぶりで2度目となる。今回の生徒は人間福祉科の40名で全員が女子生徒であった。ねらいにもあるように、生徒が、今の親子関係を親の気持ちに寄り添い考えることで、将来の自分の親としてのイメージをもつことができたようである。生徒とファシリテーターは面識がなく、初対面からの講座スタートであったが、担当教諭と綿密な連携を重ね、気持ちをほぐすレクリエーションやグループ分けに工夫を施すことでグループワークへの自然な参加の流れを作ったことが、活発なグループワークへつながった。

人間福祉科では、介護福祉や保育、被服などの専門知識や技能の習得だけでなく、相手の立場に立って考える姿勢やコミュニケーション能力の育成を目指した教育が実践されている。「親プロ」は、自分の考えや思いを自分の言葉として相手に説明する力を育成し、その場で対応しながら答えが必ずしも一つではないような体験ができることを考えれば、新しい学力の定着のための一手法として考えられるのではないだろうか。

(3) 職員研修の充実（教員のファシリテーション能力の育成）が期待できる事例

◀事例4▶ 神石高原町小中学校教頭研修会での「親プロ」講座研修実施

神石高原町の小中学校教頭研修会で、「親プロ」に関する内容の研修が行われた。神石高原町では、平成26年4月から、現在の三和、神石、油木、豊松中学校の4つの中学校のうち、三和中学校を除く3つの中学校が統合し、新たに神石高原中学校を開校する予定である。統廃合を控え、今後更に「学校・家庭・地域の連携」が求められるという神石高原町の小中学校の現状を踏まえ、「親プロ」がその一端を担えるのではないだろうかという思いから、教頭研修会で「親プロ」に関する内容が扱われることになった。

【研修のスケジュール】

研修のスケジュール（神石高原町小中教頭研修会）

◀10月23日（水）▶

- 15:30～15:35 オリエンテーション（研修の目的の確認）
- 15:35～15:40 演習のねらいについて
- 15:40～16:30 「親プロ」体験
- 16:30～16:40 「親プロ」の振り返り（意見交流）
- 16:40～16:45 まとめ・終了

◀12月9日（月）▶

- 15:30～15:35 オリエンテーション（前回の振り返りと研修の目的の確認）
- 15:35～16:05 家庭教育の現状と課題
（学習プログラムの概要、ファシリテーション技術について）
- 16:05～16:40 意見交流と発表
- 16:40～16:45 まとめ・終了

【講座の様子】（活動の様子）

2度の研修（1回目が平成25年10月23日（水）、2回目が平成25年12月9日（月））が行われ、広島県立生涯学習センター職員がファシリテーターと研修講師を担当した。

1回目は、教材番号19番（思い出してみても私にもあった青春時代～）を活用して「親プロ」講座の体験が実施された。（写真⑩）



写真⑩

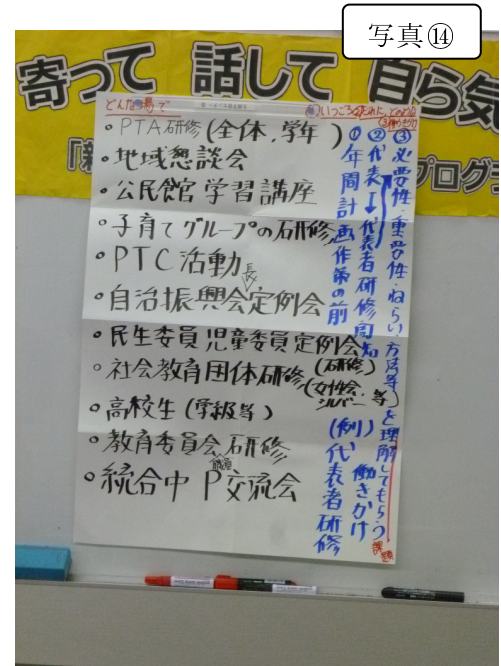
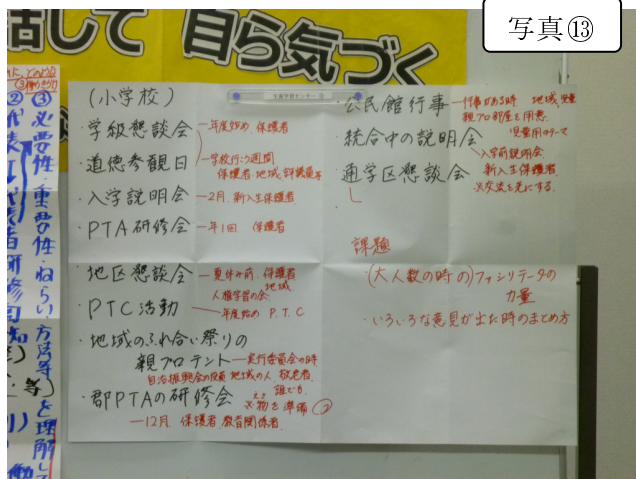
2回目は、「親プロ」を開発するに至った経緯や、今日の家庭教育や子育てを取り巻く状況について確認した後、今後、身近なところで「親プロ」を活用するとした場合、どのような場でどのようなことに留意して活用するのが良いのかなどについてグループワークが行われた。(写真⑪)



学校で「親プロ」を実施しようとする、年間行事予定に組み込む必要があるため、早めに準備する必要があることや、学校が地域や行政機関を巻き込み、家庭教育の推進に関わっていくことなどについて意見が出された。(写真⑫)



研修で作成された行事計画(作成物)である。様々な行事予定がある中で、この中に「親プロ」をどのように組み込んでいくかも考えられた。(写真⑬及び写真⑭)



【参加者の声から】

・統廃合を控え、「学校・家庭・地域の連携」は急務です。地域によって家庭教育についての考え方に違いがあることを認め合い、神石高原町全体で子どもを育てることを確認し合う上で、「親プロ」講座は必要であり、この講座が学校をはじめ、地域で広まることを期待しています。

- ・学校のPTA活動，懇談会での活用を考えていきたいと思いました。
- ・保護者間の円滑な人間関係は，子どもの成長に大きく影響します。保護者の人間関係づくりのために，「親プロ」は有効だと感じました。
- ・講座を体験して，子育てについて同じ悩みを持っている人がいるということが分かり，私自身，ホッとしました。自分の学校でも活用していきたいと思います。

【講座の分析】

神石高原町は中山間地域で過疎化も進行し児童生徒の通学範囲も広い。4つの中学校の統廃合により町内で2つの中学校となると，中学校入学時の保護者同士の結びつきは薄くなることが予想される。まさに，「学校・家庭・地域の連携」を深めていかないと，今まで当然と考えられていたことが当たり前でなくなる可能性がある。また，中学校に入学して初めて知る保護者同士が多くなり，保護者同士のネットワークも学校が主体となって構築していかなくてはならないであろう。【講座の様子】の中の写真⑬や写真⑭のように年間行事予定の中に，「親プロ」を組み込んで，無理なく，押し付けとならないような三者の連携を目指す中で実現した管理職研修の好事例である。

「親プロ」の存在を知る教員はまだまだ少ないのが現実である。今後は，現場の教員に向けた「親プロ」の研修や保護者を巻き込んだ「親プロ」講座の具体的な実施に向けた取組が必要であろう。

5 おわりに（今後について）

平成25年度の「親プロ」講座の実施集計（予定も含む）では，「親プロ」講座受講者は6,000名に近づきつつある。しかし，学校での複数年にわたる継続した講座の実施は少なく，中学校と高等学校での活用に伸び悩みが目立つ。

私自身が昨年度まで中学校で20年間以上勤務する中で，地域で活躍する講師の招聘や現代的課題に対応した教材の必要性を感じた場面は多々あった。特に，学習に取り組む意欲の向上や学習習慣の確立，基本的な生活習慣の定着などは，学校と家庭の連携・協力が必要な内容であり，未定着であることが学力の定着の妨げの一因になっている事例も見られた。

このように，子どもたちの「生きる力」を一層育むために，「学校・家庭・地域の連携・協力」を効果的に進めていくことは全ての学校にとって必要なことと考える。

今後は，「親プロ」を活用した「学校・家庭・地域」の連携・協力を支援し，モデルとなるケースをホームページなどで発信することを通して「親プロ」が学校へ根付く試みを行っていきたいと考える。

参考・引用文献および参考URL

①松田愛子『『親の力』をまなびあう学習プログラム』を持続可能な取組としていくために～ファシリテーターの果たす役割を中心に～ 平成24年度研究成果報告書（広島県生涯学習センター）

②つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～ 平成24年3月（家庭教育支援の推進に関する検討委員会）

③広島県立生涯学習センターホームページ

（親プロ講座実施状況 平成25年度 【広島市立安佐南中学校PTA】）

（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyouiku-kouza250712.html>参照）

④広島県立生涯学習センターホームページ

（親プロ講座実施状況 平成25年度 【広島県立河内高等学校】）

（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyouiku-kouza260130.html>参照）

⑤広島県立生涯学習センターホームページ

（親プロ講座実施状況 平成25年度 【広島県立総合技術高等学校】）

（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyouiku-kouza260218.html>参照）

⑥広島県立生涯学習センターホームページ

（親プロ講座実施状況 平成25年度 【神石高原町小中学校教頭研修会】）

（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyouiku-kouza2510231209.html>参照）

⑦小学校学習指導要領

第1章 総則 第1款教育課程編成の一般方針

⑧中学校学習指導要領

第1章 総則 第1款教育課程編成の一般方針

⑨高等学校学習指導要領

第1章 総則 第1款教育課程編成の一般方針